

## 審査の結果の要旨

氏名 アルン クマ - アディカリ

本研究は結膜擦過物より直接タイピングする fiber based PCR-RFLP を用いてアデノウイルス(Ad) D 群の迅速なタイピング法の開発を目的とした。更に流行性角結膜炎の主因と考えられている Ad8 の過去の分子疫学調査と比較検討するため、都城市(宮崎県、1998年-1999年)、広島市(1983年-1997年)及び川崎市(1999年)の検体より分離されたものを用いて解析した。

- 1) ウイルスの DNA 測定限界は hexon based PCR-RFLP 法では 1000 genome copy であったが、一方 fiber based PCR-RFLP 法では 100 genome copy であった。
- 2) 本法は従来のタイピング法と比較して以下に挙げられる利点がある。
  - a. 迅速かつ簡便である。分離培養法、中和試験法では 2-4 週間、また hexon based PCR-RFLP 法でも 3 日間を要する。一方、本法では 1 日を要するのみである。
  - b. 分離培養法、中和試験法は特異性はあるが、抗体などの点で感受性が低いことがある。本法は分離培養法、中和試験法と比較して特異性は同じであった。また感受性は従来の hexon based PCR-RFLP 法と同一であった。

以上より Ad D 群のタイピング法に fiber based PCR-RFLP 法は有用と考えられた。

- 3) 分子疫学調査では広島 of 検体は 1983年-1988年まで Ad8A, Ad8B、1984年-1995年まで Ad8E、更には 1995年-1997年に Ad8G が分離された。都城の検体は Ad8E が主体であった。また 1例に一部変異がみられ、過去に報告のないものであった。一方、川崎の検体は Ad8G であった。

以上、本論文は結膜擦過物より直接タイピングする fiber based PCR-RFLP を用いてアデノウイルス(Ad) D 群の迅速なタイピング法を開発した。本法は幾つかの点で従来の方法にみられない利点があり、本研究は学位の授与に値するものと考えられる。